

教員についての基本情報

教員名	萩野 敦子 教授 (HAGINO Atsuko)
担当教科と分野	国語科 国文学（日本古典文学）分野
研究対象	萩野は中古(平安時代)専門ですが、授業は古典全般を扱います。
担当授業	日本文学概論Ⅱ，日本古典文学講読，日本古典文学特講，日本古典文学演習，国語科教材研究Ⅲ（古典分野）など
授業についての一言	国語教育専修 1 年次必修の「日本文学概論Ⅱ」で古典を広く見通し，2 年次中心の「日本古典文学講読Ⅰ」で古文読解のための古典文法の知識を蓄え，「同Ⅱ」でそれを活かして古文を味読します。3 年次以降の「日本古典文学特講」では一つの作品をじっくりと読み深めています。
研究室ホームページ	ごめんなさい！ありません！！

めったにないシチュエーション=教育学部を退職された先生方と写した一枚です



研究の内容

本業としては平安時代の『源氏物語』以降の（ちょっとマイナーな）物語文学を研究していますが、琉球大学教育学部に着任後、中学・高校の古典教材について考えたり、平安文学に影響をうけた近世琉球の物語作家の作品について考えたり、関心の範囲が広がりました。近年発表した論文の題目の一部を紹介すると、

「近世琉球に再生する『みやびを』たち—平敷屋朝敏の擬古文物語をめぐって—」

「新たな古文教材の可能性—〈定番外〉の中古・中世王朝物語を中心に—」

「〈愛〉なき『竹取物語』は国語科教材に相応しいか—教科書教材と絵本『かぐやひめ』の現在から—」

という感じで、いろいろなことをつらつらと考えています。

研究室（ゼミ）の様子と卒業論文テーマ

「日本古典文学演習」（いわゆる古典ゼミ）では近年、高校の古典教科書をテキストにして、学生とさまざまな作品に接するようにしています。卒業論文を古典で書く学生は少数ですが、ゼミは開放しているので、中学や高校の国語教員になるために「古典力アップ！」をめざして一緒に学ぶ学生も沢山います。

近年の卒業論文で扱われた作品は『古事記』『伊勢物語』『源氏物語』『徒然草』など。作品ではなく「在原業平研究」「藤原行成研究」といった古典世界の人物がどのような古典作品にどのように描かれているかを研究する学生や、「古典文法の教授法」に取り組んだ学生もいました。

古典の世界にアクセスしよう

学校の授業が、古典をつまらなくしているのは、とても残念です。古典文法や古語を「暗記」して頭の中に叩き込んでも、古典の魅力には迫れません。『源氏物語』のヒロイン（紫上）は女として生きた人生を振り返って「女ばかり身をもてなすさまも所せう、あはれなるべきものはなし」（女ほど振る舞うのに窮屈で、胸がきゅ〜んとくるべきものはない）と述懐するのですが、ここに「べき」（〜にちがいない）とあることで、紫上の強い思いが伝わります……文法は、それを実感するためにあるのです。また、このメッセージそのものも、現代の私たちにまで「ジェンダー」の問題を突きつけてくる深いものです。大学の授業では、文法や古語の「壁」を少しずつ崩しながら、古典世界に描かれた人間たちや自然の風景などにアクセスする喜びを、感じていただきたいです。

